



平成23年創始 武州狭山発祥
同人結社 鬼姫狂[®] 世界総本部
偶像即神 萌燃一体 活劇至上 童心回帰
<https://www.onihimekyo.com/>

短編映画「神様の縁結び～試練と会遇の山峰～」

「
神
様
の
縁
結
び
と
会
遇
の
山
峰
」
民
富
田
智
明



神 飛 頭 撃 下 清 下 す も 緯 堅 ま 助 に 身 め 誘 た ○
 社 ば 領 を を 子 を を る 義 を 次 狙 け 来 と を 拐 女 あ 粗
 で す と 受 を 倒 し 堅 。 憤 に 聞 郎 わ を て な され 子 る 筋
 結 。 激 し 、 々 と 連 し 、 堅 に き は れ る 求 い た つ け れ 高 日 、
 ば 清 しい 河 倒 し 外 銃 と は 、 堅 出 す 。 公 身 と 。 身 独 身 子 清 。 生 ・ 町
 れ と 堅 弾 追 い 出 に 刃 物 を 公 衆 便 な 堅 。 身 性 男 は 子 清 子 春 の 神
 る 。 次 郎 は 、 危 機 を 乗 り 越 え 、 展 開 し 、 手 榴 弾 で 吹 っ
 撃 を 受 け 、 河 原 で 追 い つ め ら れ る 。 堅 次 郎 は 、 頭 領 の 追
 下 を 次 々 と 倒 し て い く 。 堅 次 郎 は 、 頭 領 の 追
 清 子 を 連 れ て 外 に 出 て 、 銃 撃 戦 を 展 開 し 、 手
 下 を 倒 し 、 銃 と 刃 物 を 手 に 入 れ る 。 堅 次 郎 は 、
 す る 。 堅 次 郎 は 、 公 衆 便 所 に 侵 入 し て き た 手
 も 義 憤 に 駆 ら れ 、 武 装 集 団 と 戦 う こ と を 決 意
 緯 を 聞 き 出 す 。 堅 次 郎 は 、 弱 気 に な り が ら
 堅 次 郎 は 、 逃 げ 込 み 、 清 子 か ら 経
 ま 狙 わ れ る 身 と な り 、 清 子 と 共 に 逃 走 す る 。
 助 け を 求 め る 。 堅 次 郎 は 、 訳 も 分 か ら ない ま
 に 来 て いた 独 身 男 性 ・ 入 間 原 堅 次 郎 と 出 会 い 、
 身 と な った 清 子 は 、 た ま た ま 山 の 神 社 に 祈 願
 め を 受 け そ う に な る が 、 逃 走 す る 。 追 わ れ る
 誘 拐 さ れ る 。 清 子 は 、 山 の 中 で 武 装 集 団 に 辱
 た 女 子 高 生 ・ 春 小 路 清 子 が 、 謎 の 武 装 集 団 に
 ○ 粗 筋
 日 、 町 の 神 社 で 縁 結 び の 祈 願 を し て い



て	武	家	銃	武	公	か	る	が	き	入	る	童	ロ	験	求	子	春	○
い	装	。家	と	装	。	り	。	、	な	間	。	女	イ	は	め	高	小	登
る	集	通	刃	集	。	ま	神	春	一	原	。	遊	ン	な	る	生	路	場
。	団	称	物	団	。	く	様	小	般	堅	。	俠	補	い	恋	。	清	人
通	の	「	で	の	。	る	の	路	人	次	。	伝	正	。	愛	子	子	物
称	手	白	武	頭	。	。	加	清	。	郎	。	「	が	清	脳	お	（	
「	下	馬	装	領	。	後	護	子	戦	（	3	で	か	純	な	姫	1	
騎	（	の	し	（	。	の	の	を	闘	8	）	お	か	派	節	様	8	
士	く	王	て	く	。	「	た	助	訓	）	凍	凍	り	。	が	願	）	
団	）	子	い	）	。	特	め	ける	練	寺	様	と	ま	あ	望	が	こ	
「	銃	」	る	清	。	攻	、	る	を	社	同	化	く	る	。	あ	に	
。	と	。	。	子	。	戦	ヒ	た	受	巡	。	す	る	。	。	り	で	
	刃		。	を	。	士	ロ	に	け	り	。	る	こ	。	異	白	も	
	物		。	誘	。	神	補	孤	た	と	。	事	と	。	性	馬	い	
	で		。	拐	。	風	正	軍	こ	山	。	に	。	。	と	の	る	
	武		。	す	。	「	が	奮	と	歩	。	鬼	。	。	の	王	普	
	装		。	る	。	の	か	闘	は	き	。	神	。	。	交	子	通	
	し		。	。	。	主	か	す	な	が	。	な	。	。	際	様	の	
			。	。	。	人	か	す	い	好	。	な	。	。	経	を	女	



○町の神社の前景

鳥居越しに本殿に向かって立っている制服姿の少女・春小路清子（18）の後姿。

○町の神社の本殿

清子が二礼二拍手して静かに祈願する。

姫華（独白）「私、春小路清子。どこにでもいる普通の女子高生。神様に何のお祈りをしているかって？ 縁結び！」

清子が祈願する姿は上品で可憐。

清子（独白）「こう見えて全然モテません。女子高生といえは恋するお年頃。なはずなんでしょう、学校男子は群れてて騒がしい、私にとって鬱陶しいだけ」

清子が一礼して、身を返して歩きだす。

清子（独白）「どこかに私の王子様がいたら、今すぐ連れ出して欲しいんだけどなく」

清子が本殿を背に歩いていく。



清子（独白）「まさか、お持ち帰りいい？」

頭領「一緒にいいところに行きませんか？」

清子（独白）「近い！ まさかキス？ 知ら

清子「えっ？」

頭領が清子の腕を取る。

頭領「もし良かったら」

清子（独白）「なにに？ この人誰？」

清子「なんですか？」

頭領「いきなりすみません」

（18）が立っている。

うな面構えの男（武装集団の頭領）

清子が振り返ると、体格のいい精悍そ

誰か「あゝゝゝ」

ふと、清子は誰かに声をかけられる。

○町の神社近くの道路

清子が歩いていく。



清子 「ひっ：：」
 うに見下ろす武装集団の面々。
 清子 「ん：：」
 地面に寝ている清子の気が付く。
 ○ 山中のどこか広いところ
 雄大な峰々。
 ○ 山の遠景
 頭領の憎らしい笑み。
 清子 「うっ：：」
 けのハンカチで鼻と口を覆う。
 頭領が清子の体を腕で拘束し、薬品漬
 清子 「やだ：：」
 清子が離れようとする。



清子 「見ないで！」

背後で手下が見ている。

清子が、茂みに身を隠してしゃがむ。

部が清子の監視に行く。

頭領が手下に目配せすると、手下の一

方に行く。

清子が立ち上がって、向こうの茂みの

頭領 「さっさとしてこい」

清子の泣きそうな表情。

頭領 「ここでしたちまえ」

清子 「おしっこさせて……」

頭領が静止する。

清子 「待って！」

頭領が清子に覆い被さるように迫る。

頭領 「じゃあ、お姫様ごっこだあ」

清子 「わかりました……」

清子が凄く震えている。

清子 「ひっ」

頭領が刃物を突きつける。

○
 ど
 こ
 か
 の
 山
 道

必
 死
 に
 、
 必
 死
 に
 。

息
 を
 切
 ら
 せ
 な
 が
 ら
 。

清
 子
 が
 必
 死
 に
 走
 り
 抜
 け
 て
 い
 く
 。

頭
 領
 も
 走
 り
 出
 す
 。

手
 下
 達
 が
 一
 斉
 に
 走
 り
 出
 す
 。

頭
 領
 「
 必
 ず
 生
 け
 捕
 り
 に
 す
 る
 ん
 だ
 ！
 」

清
 子
 が
 必
 死
 に
 逃
 げ
 て
 い
 く
 。

清
 子
 「
 き
 や
 あ
 あ
 あ
 っ
 」

頭
 領
 「
 撃
 つ
 ん
 じ
 や
 ね
 え
 ！
 」

清
 子
 を
 逃
 が
 し
 た
 手
 下
 が
 銃
 を
 撃
 つ
 。

頭
 領
 と
 手
 下
 達
 が
 立
 ち
 上
 が
 る
 。

頭
 領
 「
 あ
 の
 小
 娘
 ！
 」

頭
 領
 の
 視
 線
 に
 、
 清
 子
 が
 逃
 げ
 て
 い
 く
 姿
 。

手
 下
 が
 清
 子
 を
 追
 い
 か
 け
 る
 。

清
 子
 は
 、
 立
 ち
 上
 が
 っ
 て
 走
 り
 出
 す
 。

手
 下
 は
 向
 こ
 う
 を
 見
 て
 い
 る
 。

の
 様
 子
 を
 伺
 う
 。

清
 子
 は
 、
 お
 し
 っ
 こ
 の
 ふ
 り
 を
 し
 て
 、
 手
 下



堅	清						○				○			○
次	子						広				山			山
郎	「						い				の			の
「	き	勢	清	×	別	×	山	堅	堅	堅	神	の	鳥	神
う	ゃ	い	子		の		道	次	次	次	社	入	居	社
あ	っ	良	が	×	方	×		郎	郎	郎	の	間	越	の
っ	！	く	堅		向			が	の	が	本	原	し	前
！	「	、	次	×	か	×		一	表	二	殿	堅	に	景
「		ぶ	郎		ら			礼	情	礼		次	本	
		っ	の		、			し	は	二		郎	殿	
		か	と		堅			て	必	拍		（	に	
		る	こ		次			、	死	手		3	向	
		。	ろ		郎			本	。	し		8	か	
			に		が			殿		て		）	っ	
			走		歩			を		祈		の	て	
			っ		い			去		願		後	立	
			て		て			っ		す		姿	っ	
			き		く			て		る		。	登	
			て		る			い		。			山	
			、		。			く					姿	
								。						

清 堅 頭 頭 堅 清 堅 清
子 次 領 領 次 子 次 子
「 郎 「 「 郎 「 郎 「
堅 き 「 死 銃 誰 る 武 堅 「 の 清 あ 「 助 清 堅 清 清 清
次 や う わ ね 口 だ 。 装 次 な と 子 い 「 け 子 次 子 子 子
郎 あ あ ー が か 知 武 集 郎 っ こ 子 の つ な 、 子 は 郎 の 子 と 子 の
は あ つ あ 堅 次 知 団 が 、 装 ！ ろ 後 を が な に 下 さ 堅 の 表 堅 次 の
、 ！ つ あ 次 郎 ん が 、 堅 集 ！ に ？ い 郎 表 情 。 郎 次 すぐ
清 「 ！ つ ！
子 を 連 向 目 堅 次 郎 向 け て 銃 を 構 え の 追 っ て 、 武 装 集 団 が 堅 次 郎
れ て 逃 げ 出 す 。



堅	手	付	堅	×	手	×	堅	○	光	頭	手	確	頭	武	堅	必	銃	武
次	下	い	次		下		次	狭	で	領	下	実	領	装	次	死	弾	装
郎	達	て	郎	×	達	×	郎	い	睨	が	達	に	一	集	郎	で	が	集
と	が	く	と		が		と	山	み	立	が	仕	運	団	走	襲	団	
清	次	る	清	×	走	×	清	道	続	っ	銀	留	い	が	る	い	が	
子	々	。	子		っ		子		け	た	次	め	野	銃	。	か	一	
は	と		の		て		が		る	ま	郎	ろ	郎	撃		か	斉	
、	銃		後		追		必		。	ま	の	一	だ	を	見	る	に	
容	撃		ろ		い		死			、	後	通	。	や	え	中	銃	
赦	す		に		か		に			覆	を	報	通	め	な	、	撃	
な	る		、		け		走			面	追	さ	報	る	く	堅	す	
く	。		手		て		り			越	っ	れ	れ	。	な	次	る	
銃			下		い		抜			し	て	る	る	。	る	郎	。	
弾			達		く		け			に	い	と	と		。	と		
が			が		。		て			鋭	く	ま	ま			清		
飛			追				い			い	。	ず	ず		子			
ん			い				く			眼		い	い		が			
							。											



清	堅	○						○									
子	次	公						公									
「	郎	衆						衆									
わ	「	堅	便	連	堅	二	る	堅	便	手	×	堅	×	る	堅	手	で
か	一	次	所	れ	次	人	。	次	所	下	×	次	×	。	次	下	く
り	体	郎	内	て	郎	の		郎	前	達	×	郎	×		郎	達	る
ま	な	と	部	公	は	息		と		は	×	と	×		と	が	中
せ	ん	清	（	衆	、	は		清		後	×	清	×		清	間	、
ん	な	子	男	便	う	絶		子		を		子			子	髪	走
！	ん	が	子	所	ろ	え		が		追		が			は	入	り
「	だ	入	）	に	た	絶		山		っ		走			、	れ	抜
	あ	っ		入	え	え		道		て		り			銃	ず	け
	い	て		っ	た	。		を		い		抜			撃	銃	る
	つ	く		て	様			抜		く		け			の	撃	。
	ら	る		い	子			け		。		て			中	す	
	は	。		く	で			て				い			を	る	
	！			。	、			走				く			走	。	
	「				清			っ				。			り		
					子			て							抜		
					を			く							け		

	堅		清							堅		清	堅	清	堅	清	堅
	次		子							次		子	次	子	次	子	次
	郎		「							郎		「	郎	「	郎	「	郎
室	堅	「	堅	頼	を	清	堅	わ	い	技	え	「	堅	う	「	強	「
に	次	戦	次	り	握	子	次	れ	じ	だ	よ	「	堅	ん	あ	姦	な
入	郎	う	郎	は	る	は	郎	る	め	つ	：	「	堅	：	：	ビ	の
れ	が	し	が	、	。	涙	が	な	ら	て	：	こ	は	：	：	デ	た
る	清	か	清	お		目	震	ん	れ	習	。	っ	頭	「	。	オ	た
。	子	ない	子の	兄		になり	えて	て	た	っ	俺	た	を		無	：	め
	の手	！	の目	さん		なり	いる	：	く	た	は	：	抱	事	：	。	に
	を	「	を見	だけ		ながら	。	：	ら	と	軍	：	え	だ	逃	！	す
	引		て息	：		がら		：	い	ね	人	。	る	っ	げ	「	！
	いて		を飲	「		、			だ	。	でも	こ	。	た	出		「
	一番		む。			堅			。	。	警	ん	ん	の	し	た	
	奥の					次			あ	気	官	な	な	け	た	けど	
	個					郎			ん	も	でも	の	放	ど	た	：	
						の手			な	弱	も	放	っ	：	：	：	
									奴	え	ね	と	と	：	：	：	
									ら	。	え			「	：	：	
														「	：	：	



堅次郎「絶対に出ちゃだめだよ」

清子はうなづいて、鍵を閉める。

堅次郎が手に持っているストックを振り回して、自分に当ててみる。顔が引きつる。

堅次郎がリュックを下ろして中をさがり、汗拭きタオルと懐中電灯を取り出す。

堅次郎が汗拭きタオルを首に絞めつけ、顔が引きつる。顔が引きつる。

堅次郎が懐中電灯を目に照射してみる。準備する。

○ 公衆便所前

手下達が山道を走り抜けてくる。

周囲を伺いながら、二人が公衆便所に向かい、四人が先に進む。

公衆便所に向かった二人が、さらに男



堅	手	堅	一	堅	に	手	手	る	手	手	○	誰	手	個	手	○	女
次	下	次	う	次	向	下	下	の	下	下	公	も	下	室	下	公	に
郎	B	郎	お	郎	け	B	B	に	B	B	衆	い	A	は	A	衆	分
は	が	が	お	が	る	が	が	気	は	が	便	な	が	全	が	所	か
懐	銀	、	お	、	。 銃	奥	に	付	、	入	所	い	す	部	入	内	れ
中	次	個	お	他	口	に	進	く	一	っ	（	。 べ	部	っ	つ	女	て
電	郎	室	っ	の	を	進	ん	。 奥	番	て	男	て	開	て	て	子	入
灯	に	か	！	個	閉	ま	で	。 の	奥	く	子	の	い	く	）	っ	っ
を	銃	ら	ー	室	ま	っ	い	個	の	る	）	室	る	。 確	て	て	い
照	を	飛		に	っ	て	く	室	が	。 閉		の	。 認	。 確	い	い	く
射	向	び		身	て	い	。 個	が	閉	ま		確	を	す	く	。 確	
す	け	出		を	い	る	室	が	ま	っ		認	る	る	。 認		
る	る	す		潜	る	個	の	閉	っ	て		を	が	。 認			
。	。	。		め	室	室	扉	ま	て	い		す	、				
				て	の			っ	い			る					
				い				て				が					
				る				い				、					
				。													



堅
 次
 郎

れ 手 堅 一 手 構 堅 つ も 手 つ タ 手 堅 手 手 ス ス 堅 手
 る 下 次 一 下 構 次 っ っ 下 オ 下 次 下 下 ト ト 次 下
 。 A 郎 う お 下 A える 郎 が ける け B オ ル B 郎 B ツ ツ 郎 B が
 は 弾 を 何 発 も く ら っ て 壁 際 に 崩
 手 下 A は 弾 を 何 発 も く ら っ て 壁 際 に 崩
 堅 次 郎 が 銃 を 撃 ち ま く る 。
 一 う お お お っ
 手 下 A が 入 っ て き て 銃 を 構 える 。
 構 える 。
 堅 次 郎 が 、 倒 し た 手 下 B の 銃 を 奪 い 、
 つ っ ける 足 音 が す る 。
 も う 一 人 の 手 下 A が 女 子 便 所 か ら 駆 け
 手 下 B が も が く が 、 力 尽 き る 。
 つ っ ける 。
 タ オ ル を 手 下 B の 首 に 思 い 切 り 絞 め
 手 下 B が 沈 ん だ 隙 に 、 堅 次 郎 が 汗 拭 き
 堅 次 郎 が 手 下 B を 思 い 切 り 蹴 る 。
 手 下 B が 、 銃 を 構 え よ う と す る 。
 手 下 B が 壁 際 に 崩 れ る 。
 ス ト ッ ク で 二 度 、 三 度 と 突 く 。
 ス ト ッ ク で 二 度 、 三 度 と ぶ ん 殴 る 。
 堅 次 郎 が ス ト ッ ク で 手 下 B を ぶ ん 殴 る 。
 手 下 B が 、 ま ぶ し さ で 目 を 覆 う 。

堅 次郎 「他の手下が来る。ここだと囲まれて
危ない。外に出、移動しながら片付ける
堅 次郎 「念のためだ」
清 子 「このための使いえない銃を一丁渡す。
堅 次郎 「殺るしかないか。死体に怯える。
清 子 「部屋から清子が出てくる。
堅 次郎 「二人倒した敵から銃と刃物を奪
清 子 「お兄さん！お兄さん！」
お兄さん！」



堅	手	隠	堅	手	堅	手	手	堅	隠	堅	手	道	堅	○		○
次	下	れ	次	下	次	下	下	次	れ	次	下	の	次	木	困	公
郎	E	る	郎	D	郎	C	達	郎	る	郎	達	先	郎	が	を	衆
が	F	。	と	が	が	が	が	が	。	と	が	か	と	た	見	堅
銃	が		清	回	木	銃	散	銃		清	銃	ら	清	く	渡	次
撃	銃		子	り	の	撃	開	撃		子	撃	、	子	さ	し	郎
す	撃		が	込	陰	す	し	す		が	す	手	が	ん	、	と
る	す		回	んで	に	る	て	る		回	る	下	走	生	道	清
。	。		避	で	隠	。	回	。		避	。	達	っ	え	の	子
			し	銃	れ		避			し		が	て	て	先	が
			、	撃	る		す			な		駆	く	る	に	便
			他	す	。		る			が		け	る	こ	走	所
			の	る			。			ら		つ	。	ろ	り	か
			木	。						木		け			出	ら
			の							の		て			て	出
			陰							陰		く			き	て
			に							に		る			、	周



下 D が走って回避する。
 手 C が弾を食らって倒れ、残りの手
 銃 撃する。
 堅 次郎と清子が木の陰に隠れて回避し、
 手 下 C が走って木の陰に回避する。
 手 下 C が走って木の陰に回避する。
 避 し、銃撃する。
 堅 次郎と清子以外の木の陰に隠れて回
 手 下 C が左右から合流して銃撃する。
 手 下 F が弾を食らって倒れる。
 避 し、撃ち返す。
 堅 次郎と清子以外の木の陰に隠れて回
 手 下 F が銃撃する。
 手 下 E が弾を食らって倒れる。
 く る。
 堅 次郎と清子が走りながら銃を撃ちま
 堅 次郎が木の陰に隠れる。
 手 下 F が銃撃する。
 手 下 E が銃撃する。
 手 下 E が走って回避する。



	○							清	堅		堅							
	曲							子	次		次							
	が							「	郎		郎							
×	堅	り	頭	堅	撃	頭	堅	き	「	そ	「	堅	い	手	手	堅	堅	手
	次	く	領	次	し	領	次	ゃ	う	の	あ	る	下	下	次	次	下	
×	郎	ね	が	郎	て	が	郎	あ	お	時	と	。	は	D	郎	郎	D	
	と	っ	追	と	く	、	が	あ	お	、	一	が	全	が	と	が		
×	清	た	っ	清	る	背	清	っ	お	背	人	興	滅	弾	銃	清	銃	
	子	山	て	子	。	後	子	！	お	後	大	奮	し	を	撃	子	撃	
	が	道	い	が		か	を	「	っ	か	将	し	、	食	が	が	走	
	下		く	逃		ら	連	「	！	ら	み	て	堅	ら	走	走	。	
	り		。	げ		駆	れ		「	銃	た	息	次	っ	っ	っ	回	
	方			去		け	て			撃	い	が	郎	て	倒	て	避	
	向			っ		っ	走			さ	な	荒	の	倒	れ	る	す	
	に			て		け	っ			れ	奴	い	周	る	。	る	。	
	逃			い		て	逃			る	が	。	り	で				
	げ			く		き	げ			。	い		で	果				
	て					て	出				た		て					
	い					、	す				：							
	く					銃	。				：							
	。										「							



堅		頭	堅	頭		堅		○									
次		ち	領	次	領	次		河									
郎		り	「	郎	「	郎		原									
「	頭	で	大	「	も	頭	「			堅	頭	堅	頭	い	堅	×	頭
死	領	死	し	断	う	領	く			次	領	次	領	て	次		領
に	が	ぬ	た	る	逃	が	そ			郎	が	郎	が	く	郎	×	が
た	堅	の	勇	！	げ	走	っ			と	木	が	銃	る	と		追
く	次	は	気	「	場	っ	！			清	の	撃	撃	。	清	×	い
な	郎	嫌	だ		は	て	「			子	陰	ち	す	子		か	
ん	に	だ	な		な	き				が	に	返	る	の		け	
か	銃	ろ	。		い	て				走	回	す	。	後		て	
な	を	？	だ		ぞ	立				っ	避	。		ろ		い	
い	向	「	が		。	ち				な	す			に		く	
！	け		、		そ	止				い	る			、		。	
「	る		余		の	ま				て	。			頭			
	。		計		娘	る				立				領			
			な		を	。				ち				が			
			と		渡					止				追			
			ば		せ					ま				い			
			っ		「					る				付			
										。							



	頭										頭	清	堅		頭	堅	頭		
	領										領	子	次		領	次	領		
	「										「	「	郎		「	郎	「		
堅	頭	う	清	堅	頭	堅	頭	堅	清	頭	ぐ	清	き	堅	「	頭	な	「	な
次	領	お	子	次	領	次	領	次	子	領	あ	子	や	次	ぐ	領	ら	「	ら
郎	が	お	が	郎	が	郎	が	郎	が	が	っ	が	あ	郎	あ	が	死		娘
が	斬	お	う	が	銃	と	苦	が	興	倒	！	拳	あ	が	っ	堅	ね	！	を
避	り	っ	ろ	銃	を	頭	悶	苦	奮	れ	「	銃	っ	被	！	次	！	「	渡
け	か	「	た	を	捨	領	の	悶	し	る	。	を	！	弾	「	郎	「	せ	
る	か		え	捨	て	が	表	の	て	。	構	「	し	し	を	撃		！	
。	か		な	て	て	に	情	表	い	。	え		て	て	撃				
	る		が	て	刃	ら	で	情	る		て		倒	れ					
	。		ら	刃	物	み	起	で	。		頭		れ						
			脇	物	を	合	き	起		領									
			に	を	抜	う	上	き		を									
			ど	抜	く	。	が	上		撃									
			く	く	。	る	が	上		っ									
			。	。	。	。	る	上		。									
							る	が											
							。	る											



堅次郎 「うる。おおおっ」

頭領 「ぐおおっ」

堅次郎 がよろけて立ち上がり、拳を構

刺さる。頭領に、堅次郎が投げた刃物が突き

頭領の視線が清子に向けたその瞬間、

弾切れだな」

清子 「あれ：：」

撃てない。

清子が銃を撃とうとする。

清子 「いやああっ！」

堅次郎が刃物を刺そうと構える。

堅次郎が崩れてもがく。

堅次郎が叩き込む。

頭領が堅次郎の腹を何度も殴り、顔面

頭領が避けて殴り返す。

堅次郎が頭領に殴りかかる。

堅次郎 「うおおおっ」

堅次郎が拳を構える。



	頭		清	堅		頭		清											
	領		子	次		領		子											
	「		「	郎		「		「											
榴	堅	う	頭	堅	手	き	「	手	頭	お	て	そ	清	お	る	堅	堅	頭	堅
弾	次	お	領	次	榴	や	う	榴	領	姫	い	の	子	兄	。	次	次	領	次
が	郎	お	の	郎	弾	あ	わ	弾	が	を	た	時	は	さん		郎	郎	が	郎
爆	と	お	目	が	が	あ	あ	が	手	を	手	、	、			が	が	力	と
発	清	お	が	と	落	あ	あ	飛	榴	吹	榴	頭	堅	！		よ	興	な	頭
し	子	っ	引	っ	ち	っ	あ	ん	弾	っ	弾	領	次	「		ろ	奮	く	領
、	が	！	き	さ	る	！	あ	で	を	飛	を	が	郎			よ	し	倒	の
頭	飛	「	っ	に	。	「	っ	く	投	ば	取	起	を			ろ	て	れ	体
領	ぶ		る	拾			！	る	げ	し	り	き	抱			と	息	る	が
を	よ		。	っ			「	。	っ	て	出	上	き			清	を	。	交
吹	う			て					け	や	す	が	留			子	荒		差
っ	に			、					る	る	。	り	め			の	げ		し
飛	伏			投					。	う		、	る			方	て		、
ば	せ			げ					う	う		隠	。			に	い		静
す	る			返					っ	っ		し				歩	る		止
。	。			す					「			持				み	。		す
手				。								っ				寄			る



清子「お兄ちゃん！」

清子（独白）「私もお姫様にならないとね」

女漫画みたいな美男子じゃないけどね」

が、私にとっての本当の白馬の王子様。少

清子（独白）「命懸けで戦ってくれたこの人

んとか無事に助かりました」

バンバン撃たれて本当に怖かったけど、な

清子（独白）「悪い奴らに誘拐されて、銃で

○山の神社の本殿

堅次郎と清子が並んで祈願している。

清子「うん：：」

堅次郎と清子は、とても、近い。

堅次郎「大丈夫？」

い被さるように伏せている。

静まると、仰向けの清子に堅次郎が覆



なるか教えてやれ。男も女も必ず消せ」
 損害は大きい。脅征会を敵に回したらどう
 『お姫様ごっこ』は世界の富豪に大人気だ。
 謎の男（声）「白馬の王子が殺られただと。
 ○黒画面
 終わったと見せかけて……。
 主題歌挿入「神様の縁結び」。
 ○終幕
 清子（独白）「すべては、神様のお導き」
 き……。
 清子は、堅次郎に唇を近づけてい

完